



ひなどり



園だより 7月号
平成30年6月29日
新潟市立新津第三幼稚園

180 cmからの景色を見て、ギターの色を聴く

園長 間嶋 哲

毎月の誕生会で、今年度から始めたことが二つあります。

一つは、絵本贈呈の後に、一人一人の子どもを私の目線くらいまで抱き上げること。もう一つは、毎月の歌をギター伴奏しながら、みんなで歌うことです。

抱き上げることは、私自身が小学校低学年の担任であった頃は、よくやっていました。もちろん我が子にもやっていました。スキンシップの大切さはもちろんのこと、その子の体の重さを直に感じることで、成長も実感できます。私の高さまで抱き上げることで、「大きくなったら、こんなふうに世界が見えるよ。大きくなってね」という思いを、直接届けたいという気持ちもありました。

第三小学校長でもある私は、ほぼ毎日、小学校の校門で小学生を迎えています。低学年の子どもが歩いてくると、ほとんどの場合しゃがみこんで、子どもの顔を見ながら挨拶しています。180 cmの身長が、立ったままでは見ることができない細かな子どもの表情を見ることができます。そうしたことを続けていたある日、私はあることに気付きました。子どもの目線の高さから見える世界は、私が普段見ている世界とはずいぶん違うことです。高学年の子どもなどは、本当に大きく映ります。また、少し暑い日だと、直接地面から熱さが伝わってきます。大人より熱中症になりやすいことも頷けます。一年に一回くらい、180 cmからの景色を体験させたいなあと思ったのです。

ところで、誕生会ではいつも、学年ごとに子どもたちが歌のプレゼントをしてくれます。「子どもたちもやっているのだから、私も歌おう！」というくらいの軽い気持ちから始めました。どうせなら、中学校時代から趣味としてやっているギター（子どもの前でやるのは、大学時代から始めたクラシックギターです）をつま弾こうというわけです。6月は『カエルの歌』。残念ながらあっという間に終わる曲だったので、カエルの声を変えたり、他の歌も歌ったりしました。世の中には様々な歌があることを知ってもらったり、ギターの音色のよさを感じてもらえたりすると、ありがたいなあとと思っています。

子どもたちの成長にとって必要なことは、やはり多様な経験をたくさんすることです。

